

## 第5節 各構成要素の課題

### (1) 石垣における課題

#### ①保存上の課題

本計画対象範囲には168面の石垣が遺存している。全体の約73%（123面）は、大きな変形が見受けられず、今後とも適切に管理していくことで保存を図ることが可能である。逆に全体の約12%（20面）で、大きな変形や崩落などの破損が生じ、何らかの保存措置が必要な状態となっている。残りの15%（27面）は、目視確認ができず保存状況のわからないものや、安定性を評価するため調査が必要なものに区分され、現段階で保存措置の必要性が判断できない。

石垣を確実に保存するためには、計画地全域を対象とした現状把握のための各種調査を実施しなければならない。その上で状況に応じた保存措置と石垣保存整備を着実に実行していくための整備計画を別途策定する必要がある。

何らかの保存措置が必要と区分した石垣のうち、竹林門石垣については、最も破損の程度が著しく、万一の崩落時には甚大な人的被害も想定されるため、迅速に解体修理による保存措置を講じる必要がある。また、車道に面している鉄門石垣についても保存措置に向けて調査を始める必要がある。

#### ②活用上の課題

石垣に近接して樹木が生育する場合や、苔やつる性植物で覆われてよく見えないものが多数ある。保存上の課題であるとともに、本史跡における本質的価値を構成する要素であることから、剪定や伐採により可視化する必要がある。

活用を目的とした剪定・伐採を実施する上で留意すべき点は、市街地における貴重な緑地空間であることと、桜と松が「本質的価値に準ずる価値を構成する要素」に位置づけられていることである。

### (2) 土坡（堀・土塁）における課題

#### ①保存上の課題

堀や土塁の土坡部分の樹木については、倒木や根の伸長による土坡の改変を防止するため、危険性が高いものから順次伐採していく必要がある。ただし、ここまで生長した樹林は、土坡の保存にも寄与していることから、急激な環境の変化は望ましくない。現状を保存するため、有識者指導のもと現況把握に必要な調査をおこない、段階的に伐採していく必要がある。

土塁の土坡部分は、一部で表土が流出していることから、発掘調査により遺構の保存状況を確認した上で、覆土保存する必要がある。

#### ②活用上の課題

堀や土塁の土坡部分についても石垣と同様に樹木が密集していることから、堀と認識できない部分が多い。保存上の課題であるとともに、本史跡における本質的価値を構成する要素であることから、剪定や伐採により可視化する必要がある。

活用を目的とした剪定・伐採を実施する上で留意すべき点として、石垣と同様に緑地空間や桜、松と、どのように共存を図っていくのか検討する必要がある。

### **(3) 動線における課題**

計画対象範囲内の大部分はすでに歴史公園として利用されている部分も多く、新たな動線が必要な部分は少ない。今後は本史跡が有する価値をより深く理解してもらうため、目的別の見学経路を設定して、来訪者に周知していくことが望ましい。

常盤曲輪および毘沙門曲輪は、園路が未舗装であることから、車いす利用や降雨時の利便性を考えると、順次舗装していく必要がある。園路舗装された部分も一部で経年劣化が見受けられることから、必要に応じて更新していく必要がある。

### **(4) 安全管理における課題**

計画対象範囲内の高所や水堀縁辺部には柵が整備されているものの、コンクリート製擬木柵は経年劣化が進行している。また、土砂の堆積により柵が低くなり、機能が低下しているものもある。これらの柵は更新もしくは地盤の切り下げなどをおこなう必要がある。

柵を更新する場合は、史跡景観になじむもので、耐久性の優れた素材を採用して維持管理の負担軽減を図る必要がある。

### **(5) 案内解説における課題**

不足していた遺構に関する解説サインが令和7年度に新規で整備されたことから、当面の課題としては経年劣化したサインの更新と、石垣や土坡の可視化に合わせ、本史跡が有する価値を理解してもらうための新たなサインが必要となる。

サインを更新する場合は、既存施設と統一した意匠にすることが望ましい。目的別の見学経路を設定する際は、案内サインへの表記と経路分岐点への誘導サインが必要となる。

### **(6) 休憩・便益施設における課題**

史跡指定範囲の中央には郡山城情報館があり、休憩・便益機能だけでなく展示解説機能を有している。計画対象範囲には、これまでの公園整備にてベンチが多数配置されている。ただちに新設する必要はないが、経年劣化した施設は順次更新していく必要がある。その際には再配置や統廃合などの配置計画を見直す必要がある。

便益施設についても情報館の他に2箇所あり、こちらも新規の設置は必要ないが、旧式化した設備については必要に応じて更新していく必要がある。

### **(7) 歴史的建造物および再建城郭建築における課題**

順次、耐震診断と必要な耐震補強を実施していく必要がある。旧奈良県立図書館については、活用方法についても合わせて検討する必要がある。

## **（８）桜と松における課題**

桜と松はいずれも「本質的価値に準ずる価値を構成する要素」に位置づけられていることから、本質的価値の保存に支障とならない範囲で存置していく必要がある。しかし、桜に関してはその多くが老木化していることから、徐々に減少している状況にある。城跡のシンボルとして親しまれている樹種であることから、本質的価値に影響を与えず、共存していく方法を検討する必要がある。

## **（９）景観と眺望における課題**

本史跡の景観と眺望は、樹木の影響を多分に受けている。石垣と土坡の課題でも述べたように、遺構の保存を大前提に廃城後の歴史的景観に配慮しつつ、適切な樹木整備により景観形成と眺望確保をめざす必要がある。その整備効果は、本史跡が有する価値や魅力を来訪者に伝える上で非常に大きい。